

小川町の環境保全型農業における土づくり

豊かな土づくりによってもたらされる持続可能な農業の推進

埼 玉 県 小 川 町

令和6年9月30日（月）



「町の資源を活用し、豊かな土づくりを大切に続ける」という農業の理念を基に、農業の振興に取り組んでおります。

小川町の概要

総面積 60.36 km²
(うち農地面積 868ha 14.3%
林地面積 3,279ha 54.3%)

人口と世帯数 (令和6年9月1日現在) 【前年比】

■人口 27,581 人 【-345】
■世帯数 13,130 世帯
■65歳以上 11,712 人 【+82】
■高齢化率 42.5 % 【+0.9】

※過去の最大人口は、平成9年1月 38,578人



首都東京の北側、埼玉県ほぼ中央部に位置している小川町は、周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれ、歴史を誇る小川和紙や小川絹をはじめ、建具、酒造などの伝統産業で古くから栄えた町です。

2014年には、和紙の製紙技術がユネスコの無形文化遺産に登録されました。

小川町へのアクセス



アクセス

電車

東武東上線 池袋駅から最速60分

J R 八高線 八王子駅から約80分 高崎駅から約60分

■自動車

関越自動車道練馬 I Cから嵐山小川 I Cまで約50分

小川町の農家と経営規模

総農家 7 1 4 戸
農業経営体※ 2 6 6 経営体
自給的農家 4 4 8 戸
※30 a 以上の農業経営体

農業経営体の経営規模

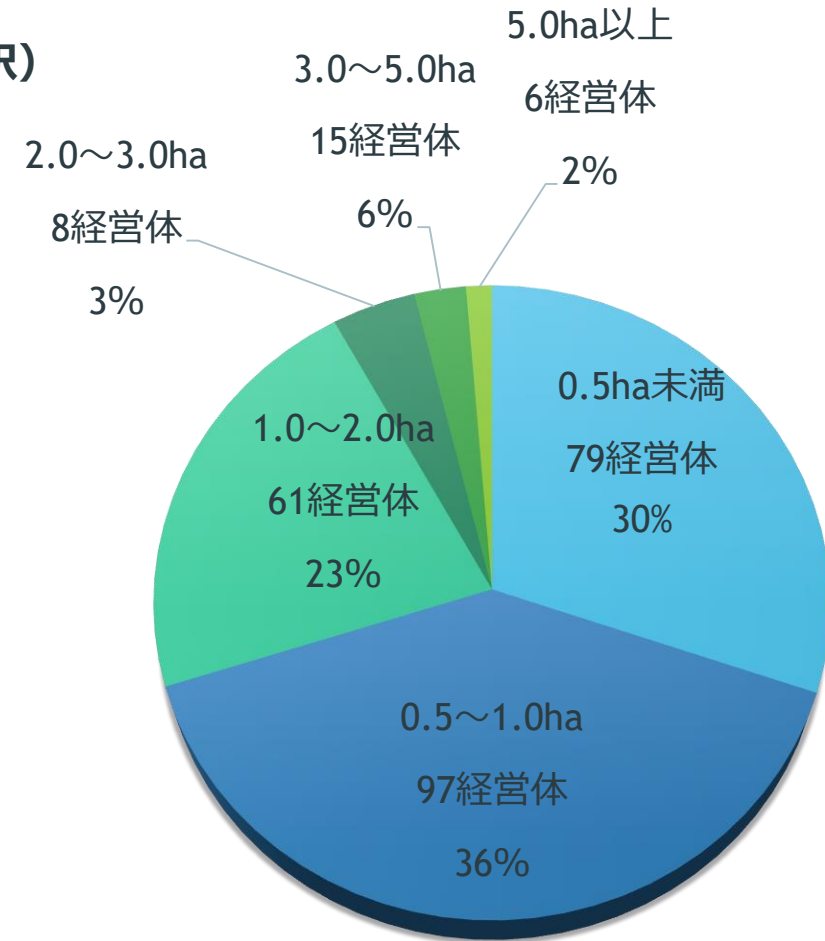
(2 6 6 経営体の内訳)

小川町GDP 77,708,000,000円

小川町農産物GDP 1,190,000,000円

農業が占めるGDP **1.5%**

(2020 農林業センサス)
平成30年度 埼玉の市町村民経済計算
農林水産業の基本指標 農業産出額 (推計)



■ 0.5ha未満 ■ 0.5~1.0 ■ 1.0~2.0 ■ 2.0~3.0 ■ 3.0~5.0 ■ 5.0ha以上

小川町の農業

- ▶ 中山間地に位置する小川町は、少量品目を大量に生産する「産地」ではない。平坦で広い効率的な田畑に恵まれた農業地帯ではなく、区画が狭く、傾斜のある農地が大多数を占めるという事情を抱えています。
- ▶ **耕作不利地であるからこそ、小川町の農業は創意工夫の溢れたものになっています。** 豊かな森林資源や恵まれた水資源を活かし、それぞれの農家が土づくりや栽培に取り組んでいます。
- ▶ 町は独自の認証制度を設け、頑張る農家を応援する仕組みを「おがわんプロジェクト」として推進しています。

小川町の有機農業の現状

① 新規就農の状況 (過去20年)

新規就農者 39名

新規就農者のうち **有機農業者** (※1)

33名 85%

新規就農者のうち **町外からの移住者** (※2)

33名 85%

(※1) 有機農業者を志望し、有機農業者として就農した農業者の数 (経営の全部で有機農業を実施)

(※2) 新規参入者のみ、親元就農 (農家の子供がUターン等) や法人就農は含まない。

② 有機農業の割合

- 有機農業面積
57ha (19%) (※3)
- 有機農業に取り組んでいる農業経営
対数
42経営体 (16%) (※4)

(※3) 30a以上の農業経営体の経営耕地面積
(302ha) に占める有機農業面積の割合

(※4) 30a以上の農業経営体 (266経営体)
に占める有機農業者に取り組んでいる
農業経営者の割合

《経営耕地面積・農業経営体数:2020農林業センサス》

発表！2023年版 第11回「住みたい田舎」ベストランキング

田舎暮らしの本

2023年2月号
特別定価 850円

話題の大特集

2023年版
第11回

「住みたい田舎」 ベストランキング

編集部独自アンケートに671市町村が回答
「あなたにピッタリの移住地」がきっと見つかる！



人口別に7グループに分け、それぞれを「総合」「若者世代・単身者」「子育て世代」「シニア世代」の4部門でランキング。
全国12エリア別のランキングも発表します。
「移住支援制度が充実しているまち」「移住者が多いまち」「子育て支援に力を入れているまち」「シニアも暮らしやすいまち」など、「住んでみたいまち」が目白押し！



埼玉県小川町

おがわまち



左／商業施設や医療機関、家族で遊べる公園なども充実。上／1949年から受け継がれてきた小川町七夕まつり。

都心から60km圏内、緑豊かな山に囲まれた移住地

和紙や小川絹、建具、鬼瓦、酒造などで古くから栄えた町。市街地の中央を槻川が流れる自然豊かな土地で、最近では有機栽培の取り組みが盛んなことでも知られる。池袋駅へ約70分でアクセスでき、都内などへの通勤者が転入した場合、東武東上線下りTJライナー座席指定券購入費用の一部を補助。テレワークが可能なコワーキング施設あり。新規就農希望者や空き店舗で起業する若い移住者も増えている。

◎移住サポートセンター ☎0493-81-5331

小川町は、埼玉県内でもっとも移住に関する相談が多い自治体です。

2022年度に県や市町村の窓口などで受け付けた移住相談の件数のうち、小川町については926件。2位の秩父市の2倍近くにのぼります。

子育て世代部門

1	千葉県 いすみ市	76.78点
2	千葉県 多古町	56.90点
3	埼玉県 飯能市	48.47点
4	埼玉県 坂戸市	48.10点
5	埼玉県 加須市	47.96点
6	千葉県 館山市	47.03点
7	千葉県 鴨川市	46.57点
8	千葉県 南房総市	46.11点
9	埼玉県 小川町	45.85点
10	神奈川県 山北町	45.80点

総合部門

1	千葉県 いすみ市	111.51点
2	埼玉県 山北町	93.30点
3	埼玉県 小川町	87.65点
4	千葉県 鴨川市	84.52点
5	埼玉県 加須市	84.18点
6	千葉県 多古町	84.06点
7	千葉県 館山市	78.35点
8	千葉県 君津市	74.78点
9	千葉県 南房総市	74.29点
10	千葉県 栄町	73.19点

シニア世代部門

1	千葉県 いすみ市	36.32点
2	千葉県 鴨川市	32.37点
3	埼玉県 小川町	31.49点
4	埼玉県 鴻巣市	30.48点
5	千葉県 君津市	29.74点
6	神奈川県 山北町	29.47点
7	千葉県 匝瑳市	29.34点
8	埼玉県 飯能市	29.19点
9	埼玉県 加須市	28.86点
10	千葉県 多古町	28.10点

若者世代・単身者部門

1	千葉県 いすみ市	51.54点
2	埼玉県 小川町	33.87点
3	千葉県 南房総市	30.51点
4	千葉県 館山市	29.88点
5	千葉県 鴨川市	27.80点
6	千葉県 多古町	24.91点
7	千葉県 銚子市	23.69点
8	埼玉県 秩父市	22.48点
9	埼玉県 加須市	22.36点
10	千葉県 勝浦市	21.73点

小川町の有機農業の歩み

- ▶ 1971年 金子美登氏が有機農業の実践開始（有機農業という言葉が誕生）
- ▶ 1979年 霜里農場で研修生の受け入れ開始
- ▶ 1995年 小川町で研修した就農者が中心となり小川町有機農業生産グループが結成
- ▶ 1998年 地場産業との連携が開始
- ▶ 2000年 ときがわ町の「とうふ工房わたなべ」が下里地区で栽培された大豆の全量を即金で買取
- ▶ 2001年 下里地区全体が有機農業への転換胎動(米・麦・大豆)
- ▶ 2006年 有機農業の推進に関する法律が制定
- ▶ 2008年 小川町有機農業推進協議会の設立
- ▶ 2010年 下里地区が「第49回農林水産祭 むらづくり部門」天皇杯受賞
- ▶ 2013年 道の駅おがわまちで直売コーナー設置
- ▶ 2016年 学校給食に地場産有機の使用開始
- ▶ 2017年 小川町元気な農業(おがわ型農業)応援計画策定
- ▶ 2021年 「おがわ学」で有機農業の授業開始
- ▶ 2023年 オーガニックビレッジ宣言（埼玉県内初）

小川町



小川町は、1970年代から有機農業が営まれており、食の安全・安心はもとより循環型の農業として実践されてきました。その取組に共感し、本地域で就農した農業者を中心に、栽培技術の実証や創意工夫を重ね年々有機農業の取組を拡大し、現在では町内全域に広がり、県内でも有数の有機農業が盛んな地域となっています。

国が掲げた「みどりの食料システム戦略」の流れは、当町で取組む、循環型の有機農業に親和性が高く、「有機の里おがわ」を持続発展させる好循環システムを構築する仕組みづくりを推進し、魅力あるまちづくりを目指すため、ここに「オーガニックビレッジ」を宣言します。

令和5年5月2日

小川町長 **島田 康弘**

2023年(令和5年)5月3日(水曜日)

日本農業新聞

埼玉県小川町は2日、有機農業実施計画をまとめ、県内初となる「オーガニックビレッジ宣言」を行った。計画には、有機農業の取り組み面積を2020年の55町から27年に64町に拡大し、有機農業者を5人増の46人とすることを盛り込んだ。

有機農業を実践する県内有数の有機農業地域。『有機の里おがわ』を持続発展させる好循環システムを構築し、魅力あるまちづくりを目指す」と語った。計画は①生産支援②流通・加工推進③消費拡大——の取り組みを掲げた。生産支援では、栽培技術普及マニュアル、研修先や町の支援制度を紹介するガ

醸成も図っていく。推進に当たっては、JA埼玉中央や県東松山農林振興センター、生産者グループなどで構成する「小川町有機農業推進協議会」が主体となる。宣言は農水省の「有機農業産地づくり推進事業」の事業要件に基

づくもの。現在は31道府県・55市町村が事業を進め、4月18日時点で29市町村が宣言した。県では小川町が唯一、事業に取り組み。同町の有機栽培の歴史は古く、日本の有機農業の第一人者、故金子美登氏が70年代に始め、町全体に広がった。



有機の里 高らかに

埼玉県小川町が宣言 地域挙げ拡大

イドブックの作成、共同出荷体制の構築など

を進める。有機農産物の普及に向け、加工品開発や認証制度の拡充に取り組み。飲食店や学校給食で有機野菜の利用を促進する他、農業体験を通じて消費者への理解

オーガニックビレッジ宣言をした島田町長
(2日、埼玉県小川町で)同町提供

有機農業推進に向けた今後の取組

～オーガニックビレッジ宣言～

【有機農業産地づくり事業】

○ 小川町有機農業実施計画の実現に向けた取組の実践

《生産段階の取組》

省力化や新たな栽培技術の実証

新たな資材活用の有効性の実証

栽培技術普及のためのマニュアル作成や講習会の開催等

《流通・加工関連の取組》

地元レストランなどで有機農業により生産された農産物の

利用促進、加工品の地元加工の取組等

《消費拡大の取組》

学校給食への利用拡大、マルシェや直売施設等での販売促進等



小川町元気な農業 (おがわ型農業) 応援計画

生産者がアクション（取組）を宣言し、町が認証して応援します。

- ・生産者が取組んでいることを「宣言する」。
- ・小川町が「宣言を認証」する。
- ・生産者のアクションを「おがわ型農業」と位置づけ応援する。

生産者の創意工夫や土づくりへの努力を、そのまま生産者のアクション（取組）として認証し、生産者のアクション（取組）を消費者や地域の方々に伝え、「こだわりのある小川町の農産物」として見える化する事が大切だと考え、生産者のアクション（取組）の宣言を応援計画のスタート地点にしました。

「おがわ型農業」とは

「小川町の資源を活用している農業」

「ナンバー１だと誇れる創意工夫や努力をしている農業」

「科学的に合成された肥料及び農薬を使用しない有機農業」

「豊かな土づくりに努力し豊富な微生物量を有する農業」



おがわん農産物 認証ロゴ



化学的に合成された肥料及び農薬を使用せず、小川町の資源を活用し、環境に配慮した自然循環型の有機農業に取り組む農家の認証です。



OGAWA'Nネイチャーの基準を満たし、土壌微生物多様性活性値が1,000,000以上ある、極めて豊かな土づくりのできる農家の認証です。



ナンバーワンだと誇れる創意工夫や努力に取組み、小川町の資源を有効活用する循環型農業を実践する農家の認証です。



OGAWA'N ナンバーワンの基準を満たし、土壌微生物多様性活性値が1,000,000以上ある、極めて豊かな土づくりのできる農家の認証です。



OGAWA'N
No.1 BIO



OGAWA'N
No.1



OGAWA'N
Nature BIO



OGAWA'N
Nature

おがわんプロジェクトの応援内容

《イメージ戦略》

- ▶ おがわんプレスの発行
- ▶ チラシ・ポスター作成
- ▶ 農産物添付シール作成



《販売促進・利用拡大》

- おがわん野菜を活用したマルシェ・料理教室開催
- 道の駅等イベント参加
- 直売所への専用ブース設置

OGAWA'N PRESS
published for Ogawamachi agriculture Promotion



この町には、美味しい農作物をつくる農家、応援してくれるおじ、そして何より、召し上がってくれる消費者の皆さんがいます。
収穫の喜びと恵みをみんなで分かち合い、
ぐんぐんとなる「おがわん型農業」が、
自然と人が美しく循環する地域をつくります。



《認定農家対象の補助事業》

- 機械、施設、堆肥枠、土壌微生物検査補助
- 学校給食で優先的におがわん野菜を使用





さいたま有機都市計画
SAITAMA ORGANIC CITY PLANNING

さいたま市を有機農業の街へ
地元の有機農家によるマルシェ

さいたま Organic City Fes. Vol. 2

SAITAMA ORGANIC CITY FES.
SAITAMA CITY TO THE CITY OF ORGANIC FARMING.
A FESTIVAL BY LOCAL ORGANIC FARMERS.

2023
11/11sat
10:00~15:00

※荒天の場合11/12sunに延期

浦和駅東口
駅前市民広場
(PARCO前)

有機農家による野菜販売・飲食店・
生ごみ回収BOX・ワークショップ・
音楽ステージ etc.

主催：さいたま有機都市計画 協働：さいたま市農業政策課
問い合わせ先：さいたま市農業政策課 048-829-1378

https://www.instagram.com/saitama_yukitoshikeikaku/

〈さいたまマツチングファンド助成金「軽助成事業」〉



取組当初の経緯・課題



※小川町有機農業生産グループ
1995年、霜里農場(金子美登氏)をはじめ
小川町で研修した就農者が中心となり結成。

①有機 J A S 以上の取組

すでに有機 J A S 以上の取組を小川町有機農業生産グループ※では行っていた。

②認証検査費用が高額

品目（圃場）認証費が1検査当たり当時7万円程度と高額であり、少量多品目生産では負担できない。

③小川町有機農産物はすでに認知

小川町有機農業生産グループ※の農産物は実需者の間で認知されておりブランド化していた。

●有機 J A S に代わる認証の模索

①県の特設栽培認証

直接的な認証費用のかからない県の特設を推進し、町で事務的な援助及び認証シールの作成と助成。

②生産の集団化

県の特設認証を通じ、栽培取組の拡大と集団化を図り生産量と取組者の拡大を強化。

③小川町農産物のアピール度が低い

県の特設認証はベースでありブランドではない。

● 独自ブランドの取組（OGAWA'N）



① 有機農業のみに限定しない

慣行農業でも減農薬や土づくりにこだわっている農家が多く特色を活かす。
→ 小川町の資源を活用

② 取組む人にフォーカス

品目（圃場）の認証ではなく、人を認証する。

有機だけではなく 慣行も巻き込んで 小川農産物としてアピールしていく

- 慣行で行っている農業者をないがしろにしない
- もともと小川町は減農薬で栽培している人が多い
- OGAWA'Nに取組むことによって、慣行農業で行っている方に対し、環境保全型農業への取組意識を醸成していく。
- 小川町全体で同じ方向を向くことによって小川農産物ブランドの確立を目指す。

有機農業の土づくりは、山林の自然が100年かけて1cmの腐葉土を作っているのを、百姓の手で10年、20年に早めてあげること・・・
【金子美登氏】

BIO = Biology（生物学・生態）

→ここでいう「BIO」は主に微生物に特化したもの

×**Biologique** 仏（日本でいう有機・オーガニックの意味）

BIO認証の経緯

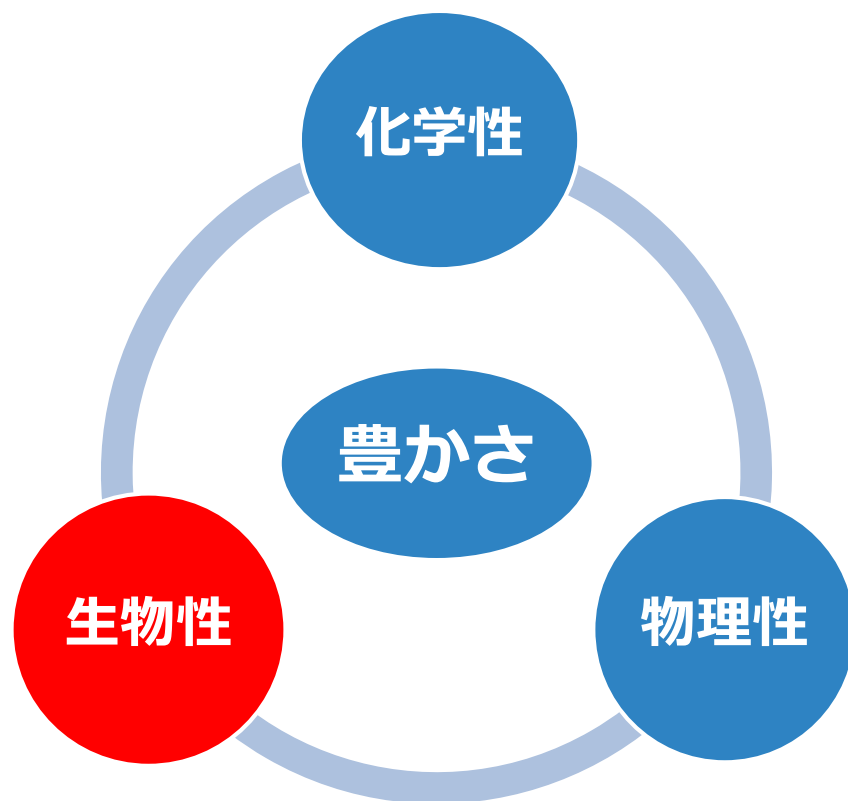
有機農業か慣行農業かの二元的な基準では土壌の豊かさの説明がつかない、栽培手法が、土壌に有効な施策であったのかは、微生物多様性・活性値を測定するしかないと判断。生産者の努力が土壌の豊かさとして数値化できるのであれば、健康な畑を美味しい農産物を作る通知表的な指標として、やり甲斐につながっていくと考えた。

認証基準：Nature・No 1 の認証基準を満たした上で小川町有機農業推進協議会が指定する土壌中の微生物量に係る検査※を行い、その値が1,000,000以上あること。

BIOにより小川町の土壌の豊かさを数値で見える化

目標：豊かな土づくりによってもたらされる持続可能な農業を推進する

- 小川町の農業は農家の「創意工夫」にあふれている
→特に「土づくり」に関してのこだわりは非常に強い



化学・物理・生物性3つがそろって
初めて豊かな土壌といえます

- ・化学性
pH、窒素、リン酸、カリ、ミネラル、腐食など
- ・物理性
粒状、堅さ、水はけ、水持ちなど
- ・生物性
微生物、小動物など



(株)DGCテクノロジーの土壌微生物多様性・活性値
分析により数値化する
※有機農業の第一人者でもある金子美登さんも以前
より注目していた

【<https://dgc.co.jp/biodiversity/case/case3.php>】 22

土壌微生物多様性・活性値が高いと・・・

- ・ 土壌消毒しなくても連作障害を起こしにくい、病気になりにくい
- ・ 土壌の硬度とも関係性があり、数値の高い土は柔らかく、生産物の根の発達が良い
- ・ 体にも悪影響があり、えぐみの元である硝酸態窒素が生産物に残りにくい
- ・ 植物の養分吸収を助けてくれることで、生育に良い影響を与える

etc...

小川町の農家の取組と土壌微生物多様性・活性値の数値

※R5.3採取した土壌サンプルの土壌の状態と検査結果概要（受検者18名中7名記載）

サンプル 番号	活性値	土壌の状態	土づくりのポイント
51671	1,784,400	水はけ良好	チップ堆肥、米ぬか、炭、灰、磯石灰
51667	1,765,934	やや水はけ悪い (田を畑作で利用)	米ぬか、チップ堆肥
51672	1,750,628	やや砂質	剪定枝のチップ材と鶏糞を主に発酵させた堆肥 (年間2t/10a)
51668	1,265,771	粘土質、水はけ良好	植物性のみの堆肥を3t/10a
51670	1,258,518	砂質、水はけ良好	剪定枝、雑草を敷き詰める
51674	1,161,977	砂質	豚糞、落葉樹、牛堆肥、籾殻焼、化成少々
51666	1,157,804	砂壤土	粉碎もみ殻を軽トラ10台分/10a、油粕8kg/10a

- ・ 受検者：18名（有機10名、慣行8名）
- ・ 100万以上：10名（有機8名、慣行2名）
- ・ その他にも、草チップ堆肥、里山のめぐみ、粉碎あらぬか、馬糞、草木灰等．．．と自分のこだわりで土づくりを行っている。

慣行

BIOの取組

OGAWA'N認証者数

- ・ 77名 (Nature: 15名、NatureBIO: 11名)
(NO.1 : 47名、NO.1 BIO : 4名)

BIO認証者数 : 15名

推進課題

- ・ OGAWA'N自体の区分がわかりづらい
- ・ 土壌微生物多様性・活性値の認知度不足
- ・ 土壌微生物多様性・活性値分析が高額
- ・ BIO認証を受けても有機JASではないため、農産物を販売する際「有機野菜」と表記できない。

課題に対しての対策・取組

- ・ OGAWA'N自体の区分がわかりづらい
- ・ BIO認証を受けても有機JASではないため、農産物を販売する際「有機野菜」と表記できない



イベントや周知活動により消費者の認知度を上げ、有機野菜に負けない「OGAWA'Nブランド」として確立させていく。

- ・ 土壌微生物多様性・活性値の認知度不足
- ・ 土壌微生物多様性・活性値分析が高額



多くのオガワン認証者に活性値分析を受けてもらう。分析代の一部を町で補助する（3～4万円かかるが補助により現在実費1万円で受けられる）。

今後の取組方針

- ・引き続き土壌微生物多様性・活性値分析に係る費用の補助
- ・BIO認証者数の増加を図る
- ・土づくりにこだわっていることをアピールし認知度を高める
- ・学校給食での使用割合を高める

農家の意見

- ・有機農業を始めた人にとって、微生物多様性・活性値の値は一つの目標となっている。
- ・ベテランの有機農家は土に対して経験に基づいた自信があるが、新規就農の方などこの数値はモチベーションにつながる。
- ・BIO認証者の中でも数値の高い農家を「豊かな土づくりを実践している農家」として表彰したらどうか。
- ・BIOの認証区分のシールを少し豪華にして差別化してもいいのでは。。。等々

堆肥生産施設

小川堆肥組合による里山や谷津沼の恵みを生かした
自然循環型サイクル



- ・ 谷津沼（ため池）沼下の遊休農地に堆肥舎を設置。
- ・ 堆肥の原料には、除草した雑草やもみがら、米ぬか、近隣の里山(おちばたんの森) から集めた落ち葉等地域の材を活用。
- ・ この堆肥で土づくりをしたほ場に、谷津沼ではぐくまれた栄養価の高い水を用いて水稻を栽培。

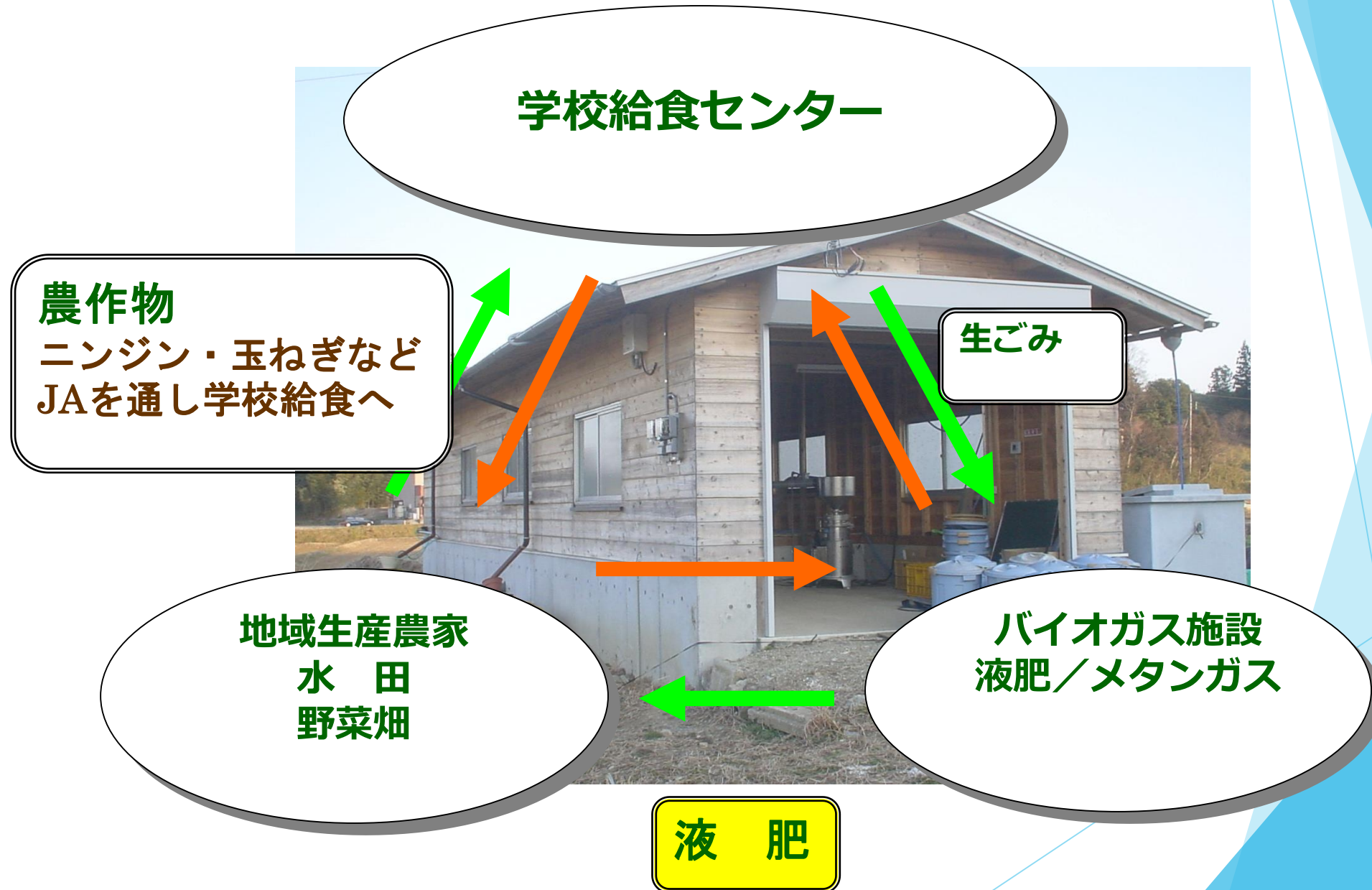


材料は、すべて小川町内で調達できるものだけ。町内のものだけで作っています。

軽トラでの販売も行ってます。



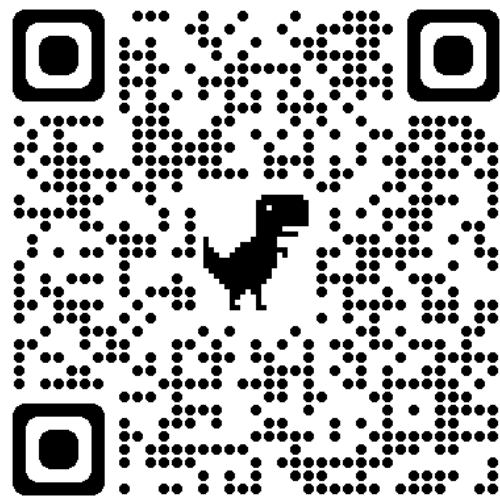
NPO法人による液肥生産施設の循環サイクル





事例紹介

▶ おがわん認証農家



OGAWA'N PRESS

published for Ogawamachi agriculture Promotion



photograph by Manato Iwasaki

この町には、美味しい農作物をつくる農家、応援してくれるお店、
そして何より、召し上がってくれる消費者の皆さんがいます。
収穫の喜びと恵みをみんなで分かち合い、

ぐるっとつながる「おがわ型農業」が、
自然と人が美しく循環する地域をつくります。

VOL. 001
Winter

OGAWA'N
Project

埼玉県小川町

OGAWA'N PRESS

published for Ogawamachi agriculture Promotion



この町には、美味しい農作物をつくる農家、応援してくれるお店、
そして何より、召し上がってくれる消費者の皆さんがいます。
収穫の喜びと恵みをみんなで分かち合い、

ぐるっとつながる「おがわ型農業」が、
自然と人が美しく循環する地域をつくります。

VOL. 008

OGAWA'N
Project

埼玉県小川町

OGAWA'N野菜が買えるお店

- A 道の駅おがわまち (リニューアル中)**
住所: 小川町小川 1220 TEL:0493-72-1220
- B JA 小川農産物直売所**
住所: 小川町下横田 676-1 TEL:0493-74-3396
- C ヤオコー 小川 SC 店**
住所: 小川町大塚 1152-1 TEL:0493-73-1321
- D ヤオコー みどりが丘店**
住所: 小川町みどりが丘 2-8-1 TEL:0493-74-2600

- E 自然食の店 リフレ**
住所: 小川町大塚 180-2 TEL:0493-74-0971

- F 藤屋精肉店**
住所: 小川町大塚 1-4 TEL:0493-72-0268

- G デリカテッセン アーチャン**
住所: 小川町小川 370-4 TEL:0493-72-4649

- H 分校カフェ MOZART**
住所: 小川町下里 824 TEL:0493-81-3051

- I 武蔵ワイナリー**
住所: 小川町高谷 104-1 TEL:0493-81-6344

- J 観光案内所 むすびめ**
住所: 小川町大塚 1176-5 TEL:0493-74-1515

- K 小川町特産品販売所**
住所: 小川町東小川 2-22-1 TEL:0493-72-1220

OGAWA'N野菜が食べられるお店

- A 玉井屋**
住所: 小川町大塚 178-2 TEL:0493-71-1450
- B 分校カフェ MOZART**
住所: 小川町下里 824 TEL:0493-81-3015
- C 有機野菜食堂 わらしべ**
住所: 小川町小川 197 TEL:0493-74-3013
- D 料亭 寿司忠**
住所: 小川町大塚 1300-1 TEL:0493-72-0018
- E ギャラリーレストラン エシカル**
住所: 小川町大塚 46-1 TEL:0493-72-4455
- F 割烹 角屋**
住所: 小川町大塚 1301 TEL:0493-72-0457
- G めし処 一カ**
住所: 小川町大塚 26 TEL:0493-72-0017
- H Chug (チャグ)**
住所: 小川町大塚 282 階 TEL:070-3346-3421
- I インド料理 ラジュモハン**
住所: 小川町腰越 646-3 TEL:0493-74-5220
- J curry&noble 強い女**
住所: 小川町大塚 171-7 TEL:0493-81-5681
- K 武州めん 本店**
住所: 小川町小川 500-1 TEL:0493-72-1212
- L たべものや月のうさぎ**
住所: 小川町角山 726-1 TEL:0493-74-5303
- M 三代目清水屋 小川町駅前店**
住所: 小川町大塚 1147-5 TEL:0493-74-0100
- N パティスリー トリヨンフ**
住所: 小川町青山 634-1 TEL:0493-72-2022



「小川町の環境保全型農業における土づくり」



ご清聴ありがとうございました。

【問合せ】

小川町役場 環境農林課 農林政策担当 高橋

e-mail:ogawa110@town.saitama-ogawa.lg.jp